

株式会社 白崎コーポレーション
2021年1月期 アニュアルレポート



目次

社長挨拶	_____	3ページ
財務ハイライト	_____	4ページ
事業概況	_____	6ページ
組織図	_____	8ページ
企業活動（CSR）	_____	8ページ
会社概要	_____	13ページ
沿革	_____	14ページ



経営理念 『自然と人間^{みんな}がいっしょに幸せになる仕事』

社会・経済構造が劇的な変化を遂げ、確たる指標なき時代、企業は自身の哲学を掲げることに
よって自らの道を切り拓かねばなりません。哲学のない企業に未来を創造することはできない。

—— 私どもが自ら質すなかで出した答えは

「自然と人間（みんな）がいっしょに幸せになる仕事」というキーワードです。

ここにはく地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主＞という5つのステークホルダーとの共存共栄が謳われています。この5つのステークホルダーとの共存による「幸せの輪」の創造こそ、私どもが目指す企業像です。

たとえば、どんなに企業の利潤が上がっても、その事業が地球の環境破壊を引き起こしていたり、社会倫理に反していたりしたら、その企業は優良と呼べるでしょうか。そこに働く社員や家族は幸福と言えるでしょうか。ひとりひとりの社員が、自分の仕事がお客様に喜んでいただける、社会に貢献していることを実感できてはじめて自らの仕事に誇りと責任感を持つことができます。そして、その責任感はビジネスパートナーとの相互信頼を育み、共に成長しお互いの事業の成功と発展にもつなげられるのです。さらに事業の成功は利潤を生み、株主の皆様にもご満足いただくことができると考えます。

白崎コーポレーションはこの「幸せの輪」の実現に向けて、ここに掲げた経営理念をすべての企業活動の礎とするべく胸に刻み込み、社会から尊敬される企業となれるよう、そしてトップを含め社員みんなが夢を語り合える企業となれるよう、今後も自らを厳しく律しながら挑戦を続けてまいります。



経営方針

- 一、 私たちはいつも環境に心を配り、地球の繁栄につくしていきます。
- 一、 私たちは顧客満足度の向上に努め、お客様の信用をたかめていきます。
- 一、 私たちはビジネスパートナーと共に歩み、確かな信頼関係を築いていきます。
- 一、 私たちは日々の仕事を通して自己を高め、豊かな未来をつくっていきます。
- 一、 私たちは適正な利潤を追求し、株主のみなさまの期待に応えていきます。



ミッション・ビジョン

ミッション 私たちは事業を通じて社会に貢献できる人を育てます。

ビジョン 全社員が自分の会社に誇りを持てるような最高の中小企業になります。



社長挨拶

「2020年度（66期）を振り返って」

代表取締役社長 白崎 弘隆

2020年は新型コロナウイルスに明け暮れた1年でした。緊急事態宣言の発令を受け、営業自粛や営業時間短縮、そしてテレワークによる在宅勤務の推進など、いろいろな企業に非常に大きな影響を及ぼしました。私の家の近くでも多くのレストランが閉店されましたし、閉店はされなくても売上の減少で苦しんでいる方もたくさんおられると思います。被害の大きかった事業者の方々には心からお見舞い申し上げます。

当社においては、難しい対応も多くありましたが、結果的に良かったところもありました。働き方改革のために以前から検討していたのですがなかなかできていなかった在宅勤務ができるようになったことです。本社以外の営業所においては営業業務がほとんどなので基本的に在宅勤務、リモート会議、電話での営業、許可を受けた顧客に対しては自宅から直行直帰という体制を整えました。営業効率を単純に比較することは難しいですが、通勤時間を他のことに充てることができるようになったのは良かったのではないかと思います。ただ、福井県の本社では在宅勤務をできるのが一部の社員のみとなり全社的に対応するのは難しい状況でしたが、幸いにも福井県では感染者が少なかったため事なきを得たというところでしょうか。

さて、66期の弊社の状況ですが、グリーンナップ事業ではコロナ禍の影響でほとんどの展示会が中止になったために新規市場開拓はなかなか難しい状況でしたが、既存の公共市場が好調で増収増益を上げることができました。一方、サプライビジネス事業では在宅勤務の増加でオフィスにおける印刷需要の減少からトナーカートリッジの需要が減少し、また新規顧客開拓も困難な状況から売上も減少して減収減益になりました。しかしながらこの業界の状況を見てみるとやはりどの企業も20%程度落ち込んでいたようで、コロナ禍の中で利益を確保できたことを喜ぶべきなのかもしれません。

全社的に見た場合には減収増益となりましたが、弊社で一番重要視している指標である一人当たりの経常利益も若干ながら伸ばすことができました。これによりより一層働きやすい、やりがいのある職場づくりを推進できると思っています。

全国的にコロナ感染者が減っていませんが、これから世界中でワクチンができるだけ早く接種できるようになり一日も早く安心な状態に戻ることを切にお祈りいたします。

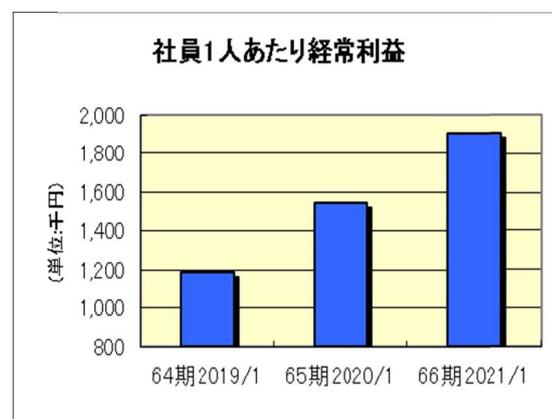
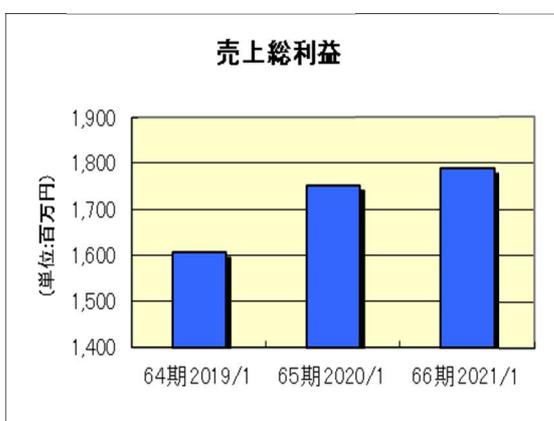
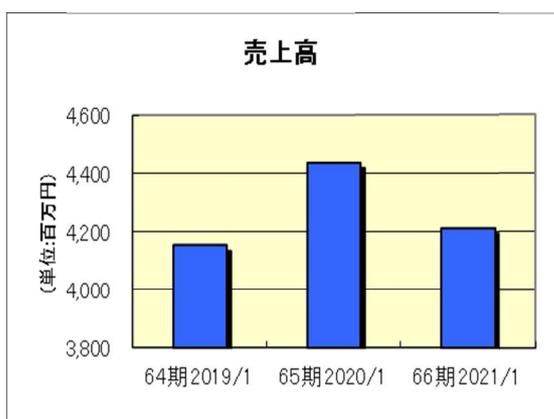

 財務ハイライト

	単位	64期 2019/1	65期 2020/1	66期 2021/1
売上高	千円	4,152,724	4,438,229	4,213,088
売上総利益	千円	1,606,970	1,751,072	1,788,225
売上総利益率	%	38.7%	39.5%	42.4%
経常利益	千円	167,767	205,570	255,633
経常利益率	%	4.0%	4.6%	6.1%
総資産	千円	2,697,249	2,917,252	3,090,036
自己資本	千円	1,249,877	1,340,671	1,453,596
自己資本比率	%	46.3%	46.0%	47.0%
総資産経常利益率	%	6.2%	7.0%	8.3%

2019年1月期（64期）から2021年1月期（66期）までの当社の決算の数値を掲載しています。

66期の売上高につきましては、再生トナーカートリッジや事務用消耗品の販売を行うサプライビジネス事業では、14億2,338万円と前期比20.7%の減収となりました。また、防草シートや緑化資材の販売を行うグリーンナップ事業では、公共市場、鉄道市場が好調で27億5,258万円と前期比5.7%の増収となりました。これらに太陽光発電事業の売電収入を含め、全体では42億1,309万円と前期比5.1%の減収となりました。

利益面につきましては、グリーンナップ事業の売上増により売上総利益は2.1%増加となり、それに加えて経費削減により経常利益は2億5,563万円と前期比24.3%の増益の決算となりました。





事業概況

■グリーンナップ事業

常務取締役 中川 豪

66期を振り返りますと、スタート時から新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、その未知との対応を探りながらまずは社員やお客様をはじめ事業関係者の安全を第一に感染予防に努めてきました。かつてない状況の中では従来通りの事業活動は出来ませんでしたが、これを機会に勤務体制の変更（直行直帰や在宅勤務の推奨）やWEBを活用した会議や商談、情報発信など様々な取り組みに挑戦してきました。コミュニケーションを充実するための手段として対面とWEB両方のメリット・デメリットを体験し、改めてこれらの必要性と重要性を実感することができました。

さて、この大きな変化の中で66期の業績への影響も懸念しましたが、結果的には前期を上回ることが出来、なかでも公共市場や鉄道市場が比較的好調に推移しました。コロナ禍での活動制限や限られた予算の中でも、雑草における様々な問題、特に除草コストやクレーム対策はもはや後回しにできない状況にあるのだと思います。さらに今後は社会全体の高齢化や人手不足、安全対策や環境問題の意識向上などで、雑草問題や雑草管理に関わる課題は複雑で大きくなる一方です。これらに対応すべく、当社は特にインフラ市場でお客様のニーズに対応した営業活動、新商品・サービス開発に注力していきたいと考えています。

また66期は遡ること59期に策定した7年計画の最終年度であり、「既存商品の強化」「新商品・サービスの強化」「施工・メンテナンスの強化」「海外市場の強化」の4つの柱をメインに活動してきました。結果としては売上で約80%の達成率でしたが、施工・メンテナンス部門の取り組みが思うように進みませんでした。当社の事業活動においてシートを敷設する（防草）、植物を植える（緑化）、あるいは水路の水漏れを補修する（メジアン）は商品品質のみならず施工品質を高めてこそ、お客様のニーズに応えるものと認識しています。またそこに当社の技術ノウハウがあり、高い価値やお客様に選ばれるための優位性があるとも認識しています。引き続きこの課題解決に向けて取り組んでいくとともに、今後のグリーンナップ事業の成長に向けてさらに挑戦していかなければなりません。67期はこれからのチャレンジとして、①人材育成、②新商品開発／改良、③新市場の開拓、④外部資源の活用、⑤知名度の向上の5つがキーワードになると考えていますが、これらが単独ではなく連動していくことが必要不可欠です。

ゴールのない事業活動の中で、ビジョンである「グリーンナップ事業の資源を最大化し、新たな付加価値を提供する企業を目指します」にいかに近づけるか！現状に満足せず失敗を恐れずに挑戦し続けること、そして決めた領域の中で進めるのではなく領域を決めながら進めていくことが、これからの変化対応や成長戦略として必要ではないかと思っています。

■ サプライビジネス事業

取締役 相澤 英昭

昨年度のサプライビジネス事業の状況を振り返ると、ペーパーレス化やプリンター出荷台数の減少などの影響に加え、新型コロナに伴う緊急事態宣言によりリモートワークの増加や店舗の休業などお客様の印刷頻度が減る要因が重なったことでリユーストナーカートリッジの出荷数量が減少し、残念ながら減収減益となりました。当社では純正トナーカートリッジの販売も行っていましたが、リユーストナーカートリッジ以上に落ち込みが大きく、売上減少の大きな要因となっています。一方で純正トナーカートリッジは粗利率が低く売上の減少率と比べると粗利の減少率は小さいため、何とか利益を確保出来たことは良かった点となります。

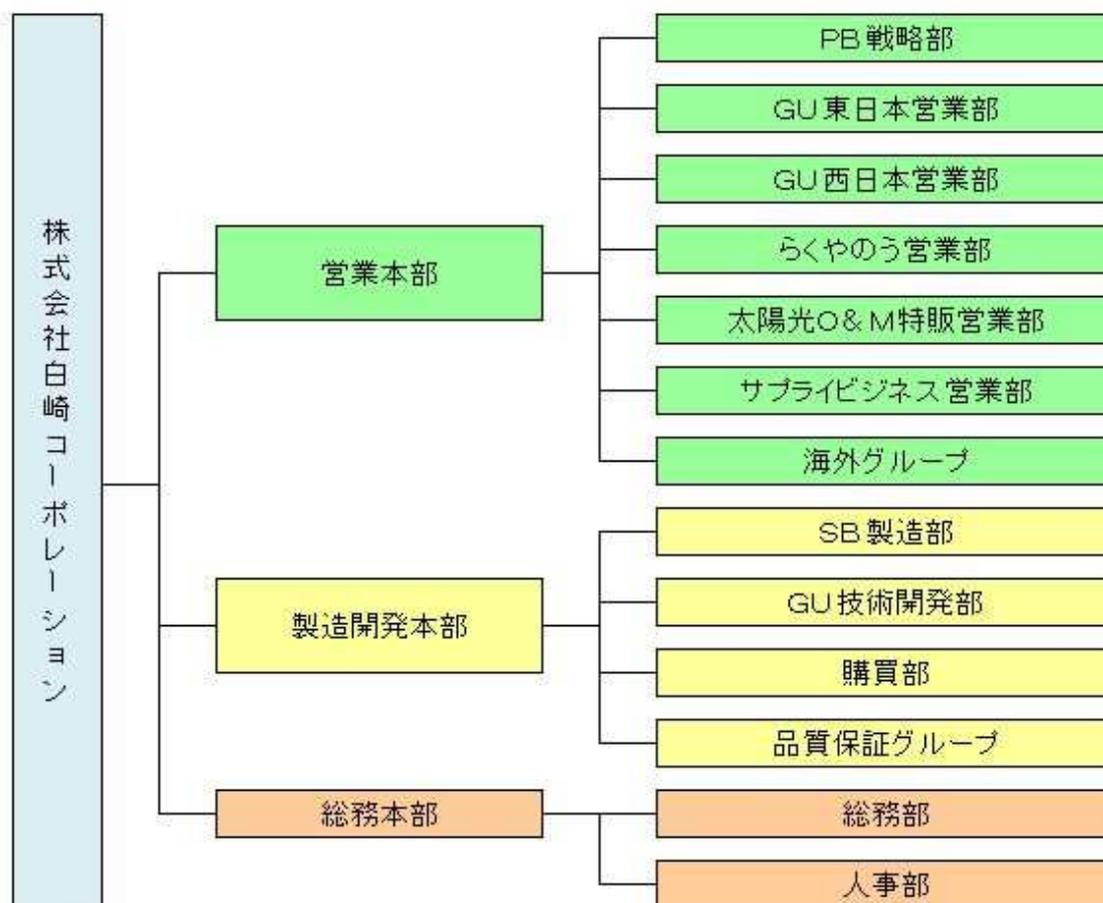
新型コロナの影響による今後の見通しは不透明ですがリモートワークの流れは今後も加速すると考えられ、オフィス内での印刷も従来のように大きく戻ることは無いと推測されます。そのような環境下でどのように事業運営を進めて行くのかという点についてご説明いたします。

サプライビジネス事業のミッションは「私たちは再生トナーを中心に、お客様の利益に貢献できる製品・サービスを提供します」、ビジョンは「私たちは製品・サービスの差別化を追求し、お客様に選ばれるものづくり企業を目指します」となっており昨年と変わっていません。注力すべき事項として、既存のお客様を大事にすることが第一だと考えています。リユーストナーカートリッジという商材は消耗品であり、一定枚数を印刷してカートリッジが空になったときには新しいカートリッジに交換する必要があります。その際に再度当社製品を選んで頂けるようお客様とのコミュニケーションを図り、日頃からご意見ご要望を伺って日々改善を進めて行くことが重要だと考えています。また、お客様がプリンターの入れ替えを行った際にご使用する新しいカートリッジにも対応できるよう運用面を含め、ラインナップの充実も大事なことです。更にお客様に安心してご使用頂けるよう品質の向上も重要なポイントとなります。不具合については継続して改善を進めており、不具合率は前年と比べ約8%低減させることが出来ましたので、より一層の低減に尽力いたします。新型コロナ対策については、万が一社内でも発生した場合でも出来るだけお客様へご不便をおかけしないような社内体制も進めております。

環境変化が激しい昨今、社員一丸となって改善を進めて行くことがより一層重要となります。お客様の声が当社改善活動の原動力となりますので、良い点や至らない点など今後も様々なご意見を頂けたら幸いです。



組織図




CSR（企業活動）

先進国では社会が豊かになるに従い経済成長以外のさまざまな価値観が生まれ、企業評価の指標として、法律や制度で定められた範囲を超えて「よりよい行動」をすることを望ましいとする傾向が生まれています。弊社では経営理念および経営方針として企業活動をめぐる5つのステークホルダー（地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主）との共存共栄を、また、ミッションとして社会に貢献できる人財育成を掲げてCSR活動体制の整備と強化を行っています。企業に求められる社会的責任の内容は時代とともに変化していきます。積極的な働きかけにより地域社会の抱えている問題を十分認識したうえで事業を通じて蓄積したノウハウや能力を社会に還元し、問題解決に貢献していくことが、地域社会からの信頼につながるものと考えています。

【1】法令及び企業倫理の遵守

■企業倫理

2001年に企業倫理の徹底を図るため、以下の5項目からなる「倫理二十五箇条」を制定しました。

1. 職場環境
2. 5S活動
3. 環境
4. 営業・業務活動
5. 会社資産の保護

これを社員全員が「経営理念」「経営方針」といっしょに毎日の朝礼で唱和をすることにより、理解の徹底から実行を図っています。

■お客様情報及び個人情報の管理

社内の情報管理については、以下の5つのセキュリティールールを定めて情報管理研修を実施するとともに全社員から誓約書を徴収し、情報漏洩の未然防止を図っています。

1. パソコンの利用に関するセキュリティールール
2. 外部媒体の利用に関するセキュリティールール
3. メール利用に関するセキュリティールール
4. インターネット利用に関するセキュリティールール
5. 白崎ネット（社内グループウェアシステム）へのアクセスに関するセキュリティールール

また、特に個人情報の取扱いについては、その取得から利用・開示・利用停止・消去に至る詳細な運用ルールを定め、個人情報の保護に努めています。

【2】社会性報告

1. 社員とともに

弊社の使命は「事業を通じて社会に貢献できる人を育てる」ことであり、そのためには「社員は財産（人財）」と考えています。社員が安心して働ける環境を整え、自ら考え、学び、行動できるような様々な制度や仕組みを作り、社会に貢献できる人づくりを推進しています。

■新卒採用 ～若いフレッシュな感覚に期待～

2007年から新卒採用活動を積極的に推進しています。若手社員をリクルーターに選抜し、彼らを中心に会社説明会や面接等を運営しています。2019年4月に2名、2020年4月に3名、2021年4月に5名の有望な人財を採用することができました。

■社員教育

社員の能力開発と挑戦する組織風土の形成を目指して、2005年度に教育体系をOJT・集合研修・自己啓発の三本柱として再編成を行い、2006年度から本格的な社員教育を実施しています。社員教育の基本は職場における指導・育成であるOJTにありますが、OJTでは補いきれない能力開発の場として階層別やテーマ別の社内研修を推進しています。

また、通信教育受講や社外研修等参加の費用補助も実施しており、社員の積極的な自己啓発の取り組みを支援しています。

■ビジネスキャリア検定試験と公的資格 ～専門能力と管理能力～

自己啓発の動機付けと取得能力を評価・測定するツールとして「ビジネスキャリア検定試験」の受験を推奨しており、春と秋に実施される試験には毎年多くの社員が受験しています。合格者は社内の掲示板に掲載し昇格試験にも活用しています。例えば、部長職であれば職務分野2級1科目以上および共通分野(労務管理、経営戦略など)3級1科目以上の合格が必須となっており、専門能力と管理能力の両面の自己啓発が要求されます。また業務に関連した公的資格への挑戦も奨励しており、難易度に応じてビジネスキャリア検定合格と同等の評価をしています。

■目標管理制度 ～目標は自分で考え、決めて、実行～

弊社の目標管理制度は、社員一人ひとりがそれぞれの部署の目標をもとに上司との話し合いを通じて自分の仕事の目標を立てて計画的に取り組み、上期・下期の年2回達成度合を評価する制度です。個人の目標は上司から与えられるものではなく、まず自らが考えて上司との個人面談を通して十分に話し合っ決めてることになっており、社員の自発的な行動を促す仕組みとなっています。

■褒める社風の定着 ～社員表彰制度～

会社や社会に貢献した社員を全員で褒め称えるために、以下の4つの表彰制度を制定し、広く社内に公開しています。

1. 永年勤続表彰
2. 白崎MVP
3. 改善提案優秀賞
4. 5S大賞

特に白崎MVPは2001年から続いており、社員相互により推薦された中から選抜されます。それらはすべてが公開され、ボランティア活動や他部門との連携・協力など、自分の業務以外の功績による推薦も多数見受けられます。

2. 地域社会とともに

企業も社会の一員であると考え、積極的な社会貢献活動に取り組むことにより社員の社会貢献意識を高めています。さまざまな活動を通じて地域の方々との交流を図り、地域社会と共に成長していきたいと考えています。

■NPO法人への支援

NPO法人「緑地雑草科学研究所」は、人々の生活圏の緑地環境を創り向上させることを目的として設立されました。そのNPO法人を支援することにより適切な雑草の制御技術や利用技術の確立と普及活動に貢献しています。

【3】 環境保護活動の実績

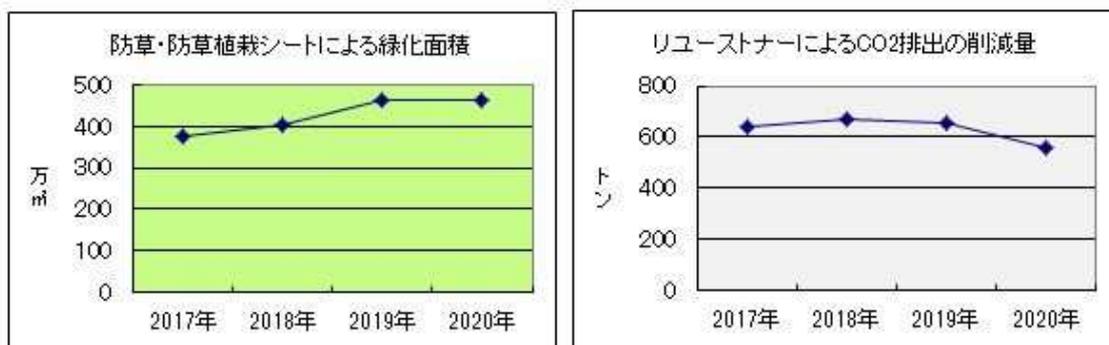
弊社では限られた資源を有効に活用し、出来る限り環境に負担をかけない企業活動に全事業所で行っています。

■防草緑化事業による環境保護

雑草を抑える防草シートや雑草を抑えながら目的の植物を育てる防草植栽シートを施工することにより、公園や道路の法面、太陽光発電施設等の雑草問題を解決して、貴重な緑地資産の価値を高めることが出来ます。また低コストでの管理が可能になるため、維持にかかるエネルギーを削減しながら社会の景観美化を推進することが出来ます。2020年度は461万㎡の緑化を行いました。

■トナーカートリッジリユース事業による環境保護

トナーカートリッジ本体を再利用するリユーストナーカートリッジは、限りある資源を有効に活用する循環型社会において重要な役割を担っています。リユーストナーカートリッジを使用することにより、本体のプラスチックの原料である原油を1本あたり2.6リットル削減できるという効果があります。また、リユーストナーカートリッジは本体のプラスチックの製造や廃棄処理におけるCO₂の排出量の削減にもつながるため、1本あたり3.4キロのCO₂が削減できるという効果もあります。2020年度は557トンのCO₂排出量削減につながりました。



■廃棄物のリサイクル

工場の生産工程で投入される材料や資材のロスを低減する、あるいはコピー用紙の再利用を行うなど、社内の省資源化に努めています。また発生したトナーカートリッジ等の廃棄物はプラスチックの原料や金属資源として、梱包材等に使用されていたプラスチックの廃棄物は梱包用ラップの原料としてリサイクルすることにより、資源の有効活用を行うと同時に最終処分量の削減に努めています。

■太陽光発電の導入

太陽光発電のメリットはクリーンな自然エネルギーであり、地球温暖化の原因となるCO₂の削減に大きく貢献できます。弊社が所有している太陽光発電所には鯖江太陽光発電所（福井県鯖江市）、三国太陽光発電所（福井県坂井市）、鹿児島太陽光発電所（鹿児島県鹿屋市）の3箇所があり、2020年度は約103万キロワットの発電を行いました。これは、当社の全事業所で使用している1年間の電力量の約2倍にもなります。

また、これらの太陽光発電所にはグリーンナップ事業で販売している「太陽光発電用防草シート」が使われており、太陽光発電の障害となる雑草の繁茂を長期間抑えることで、効率の良い発電を維持することが出来るようになっていきます。


 会社概要

会社名 : 株式会社白崎コーポレーション 設立 : 1955年7月2日 資本金 : 9,800万円 代表者 : 代表取締役社長 白崎弘隆 従業員数 : 137名(男89名、女48名) 事業内容 : 防草シート、防草植栽シート、その他緑化資材の開発・製造・販売 リユーストナーカートリッジの設計・製造・販売 トナーカートリッジ、インクリボン、その他事務用消耗品(OAサプライ品)の購入販売	
本社・福井工場	〒916-0076 福井県鯖江市石生谷町11-23 TEL: 0778-62-2200 (代表) FAX: 0778-62-3336 (代表)
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-3 小西ビル TEL: 03-6892-4400 (グリーンナップ事業直通) TEL: 03-3667-9881 (サプライビジネス事業直通) FAX: 03-3667-9880 (共通)
西日本営業所	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通3-90-1 尼崎K.Rビルディング TEL: 06-6430-1713 (グリーンナップ事業直通) TEL: 06-6430-1711 (サプライビジネス事業直通) FAX: 06-6430-1715 (共通)
九州営業所	〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊2-3-80 グランシャリオ豊 TEL: 092-473-1452 (グリーンナップ事業直通) TEL: 092-473-1430 (サプライビジネス事業直通) FAX: 092-473-1436 (共通)
福井物流センター	〒915-0801 福井県越前市家久町27-1-1 TEL: 0778-42-8353 (注文業務窓口) FAX: 0778-42-8515 (注文業務窓口) TEL: 0778-21-8500 (倉庫業務窓口) FAX: 0778-21-8502 (倉庫業務窓口)



沿革

1949年	個人創業
1955年	白崎テープ工業株式会社設立
1994年	白崎テープ株式会社と株式会社羽田が合併 株式会社白崎コーポレーションに称号変更、鯖江市石生谷町に本社設立
1996年	防草緑化事業への参入、トナーカートリッジ再生事業への参入
1997年	西日本営業所開設
1999年	九州営業所開設
2001年	ISO14001全事業所認証取得
2004年	ISO9001全事業所認証取得
2005年	ホールディングカンパニー制に移行
2011年	事業会社を統合
2012年	済南古菱納普商貿有限公司設立